

# 最新ソリューションが拓く新たな可能性 内容を大幅に拡充し、会場規模も1.5倍に

「ツーリズム EXPO ジャパン(T E J)2018」開催期間中の今年9月20日と21日の両日、東京・有明の東京ビッグサイト東展示棟で、T E Jと日本経済新聞社の共催により「インバウンド・観光ビジネス総合展2018」が開催されます。

昨年のT E J2017におけるフェアinフェアのB to B展示会として初めて開催された同総合展には、訪日観光ビジネスを支援するマーケティング、多言語・ICTソリューション、映像・ウェブコンテンツ、関連機器

インフラ支援、空間設計・インテリア、人材支援、物販体験企画などを手



展示ブースでも来場者と活発な商談が行われました

がける約80の企業や団体が出展。旅行業・観光産業以外の異業種の企業団体による出展も多く、特に、多言語・ICTソリューション関連企業のブースでは、最新のVR(バーチャルリアリティ)を活用したプログラムや最先端の翻訳機器によるデモンストレーションも行われ、多くの来場者が足を止めて実際に体験するなど賑わいを示し、ビジネス機能の強化を進めるT E Jの新たな展開として注目を集めました。

会場規模が昨年の約1.5倍に拡大される今年の同総合展には、昨年を上回る数の出展者と内容の拡

充も見込まれており、ソリューションを提供する企業団体と訪日・国内・海外の各旅行分野における担当者

が一堂に会する日本で唯一のイベントとして、期待が高まっています。

日本経済新聞社文化事業局イベント事業部の長谷川研二プロデューサーは、「今年の総合展に向けて、昨年の出展者による

反応は良く、新たな問い

合わせも増えている」と説明。「従来は多くの自治体で汎用的に利用されるようなサイネージや多言語機能などの商品やサービスが中心だったが、よりピンポイントに特定の自治体や地域、あるいは、訪日インバウンド市場での特定マーケットに向けて、目新しい技術で突出するというよりも、既存の商品やサービスをカスタマイズして組み合わせるような傾向が加速している」と指摘し、そのアプローチが積極的かつ具体的なものになってきていることを強調しています。

特に、訪日インバウンド市場の拡大と同時に成熟化も進む中で、ソリューションを提供する様々な事業者が、観光に特化した商品やサービ

スに限らず、ゴールデンルート以外の地域にも数多く訪れるようになった

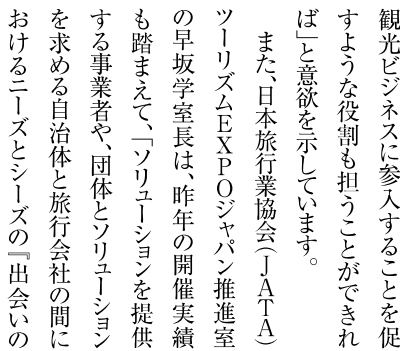
インバウンド旅行者が、滞在中に利用できるライフスタイルをサポート

するよう商品やサービスを提案する事業者からの問い合わせが圧倒的に増えているといいます。長谷川プロデューサーは、「幅広く経済情

報を扱っている日経の事業部門が、新たな観光ビジネスの絵図を描く

お手伝いをさせていただき、広く経済の活性化やより多様な事業者が観光ビジネスに参入することを促すような役割も担うことができ

ば」と意欲を示しています。



多くの来場者で賑わった昨年の会場



立ち見も出るほどの盛況だったセミナー

また、日本旅行業協会(JATA)ツーリズムEXPOジャパン推進室の早坂学室長は、昨年の開催実績も踏まえて、「ソリューションを提供する事業者や、団体とソリューションを求める自治体と旅行会社の間におけるニーズとシーズの『出会いの

場』として、T E Jに新たな機能を加えることができた」と強調。共催する日本経済新聞社との連携強化も進んでいることから、「昨年を大きく上回る成果が期待される」と見通しています。特に今年、T E J2018における商談会のマッチングシステムを活用して、同総合展における商談アポイントメントを設定できるため、「より精度の高い効率的な商談を行ってもらえる」と指摘。「出展企業のバリエーションも豊富で技術レベルも高く、単に商品やサービスを利用するだけでなく、新たな事業領域の開拓やビジネスモデルの構築も視野に、旅行業界の皆さんには、インバウンド・アウトバウンドの両分野におけるビジネスチャンスを見出せる総合展へ、積極的に参加していただきたい」と呼びかけています。

同総合展では、昨年に続いて、出展者による多彩なプレゼンテーションやセミナーの実施も予定されており、インバウンド・ソリューションをめぐる最近のトレンドや最新情報などを知る貴重な機会となることが期待されます。

※「インバウンド・観光ビジネス総合展2018」の詳細・来場登録は、<http://www.texpo.jp/biz/program/inbound.html>。